

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
小学校	上富田町立市ノ瀬小学校	山口 仁美
学校所在地		
(〒 649 - 2107 ) 和歌山県 西牟婁郡上富田町市ノ瀬604 tel 0739(48)0334 fax 0739(48)8003		
担当者名		役職名・担当教科
高地 佑輔		教諭・外国語
<p>〔学校の概要〕</p> <p>市ノ瀬は、上富田町の東端部に位置し、中心部を富田川が流れる豊かな自然に恵まれた土地である。古歌に「木の国のひとせの里に 今やこの 昔守らん いちはらの荘」とあり、古くは櫛原荘一ノ瀬と呼ばれていた。南岸には熊野古道があり、県指定文化財の「一瀬王子跡」がある。この王子跡は、熊野九十九王子の一つで建仁元年（1202年）の熊野御幸記に記されている。北岸には、中世の紀南の領主山本氏の龍松山城跡や春日神社があり、歴史的にも由緒深い土地である。近年、周辺市町村からの移住等により人口は一時増加したが、現在は横ばい状態である。地域には、比較的安定した経済基盤を持つ家庭が多く、学校教育に対しても協力的である。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
高学年 5・6年生 42名	4名 職員 4名	世界遺産センター、熊野古道
実践研究テーマ		
ふるさとに誇りを持ち、地域の魅力を発信しよう。		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間	上富田の歴史をしらべよう	
〔キーワード〕 ふるさと学習 世界遺産学習 環境教育 情報活用能力		
<p>〔単元目標〕</p> <p>(1) 市ノ瀬の歴史や文化、熊野古道との関わりを学習し、地域の素晴らしさやよさを感じようとする。 (知識及び技能)</p> <p>(2) 熊野参詣道を保全する道普請や実際に古道を歩く体験をすることで、熊野古道の良さやそれを守ることの大切さや意義を知る。 (学びに向かう力、人間性)</p> <p>(3) 今回、体験し学んだことをまとめ、自分が住む地域の魅力を発信する。 (思考力、判断力、表現力)</p>		
<p>〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕</p> <p>全体 12 時間 （「上富田の歴史をしらべよう」 12 時間 ）</p>		
<p>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕</p> <p>(1) 一ノ瀬大踊り保存会 …一ノ瀬大踊りについての学習(6年)、一ノ瀬大踊りを習う(全校児童)、地域行事の中で一ノ瀬大踊りを披露する(全校児童) 「コスモス祭り」</p> <p>(2) 和歌山県世界遺産センター …次世代育成事業（世界遺産入門、現地学習等）</p> <p>(3) 世界遺産マスター …次世代育成事業（現地学習）</p> <p>(4) 上富田町文化審議員 …龍松山城跡、城主山本氏についての学習（現地学習）</p>		

実践校に関する事項			
〔单元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	1. 一ノ瀬大踊りについて学習する。 2. 一ノ瀬大踊りを教えていただく。	・一ノ瀬大踊り保存会の方から、一ノ瀬大踊りの歴史や歌詞について学ぶ。 ・一ノ瀬大踊り保存会の方から踊りを教えていただき、大うちわやささらを持って踊る。	(学びに向かう力、人間性) 観察・ワークシート
2	3. 一ノ瀬大踊りを保護者や地域の方々の前で披露する。	・地域の「コスモス祭り」にて、一ノ瀬大踊り保存会の方々と一緒に一ノ瀬大踊りを全校児童で踊る。	(学びに向かう力、人間性) 観察 自己評価
3	4. 世界遺産センターの土永氏を招いて、事前学習を行う。	・世界遺産についての理解を深める。 ・熊野古道における一瀬王子の役割、当時の熊野詣について知る。	(思考力、判断力、表現力) 観察・ワークシート
4	5. 現地で、道普請の活動をする。 6. 熊野参詣道についての話を聞きながら、三軒茶屋跡から本宮大社までを歩く。	・参詣道の保全活動に参加することで、世界遺産を守っていくことの大変さや大切さに気付く。 ・世界遺産マスターの方から、参詣道の説明を聞くことで熊野古道の魅力を知る。	(知識及び技能) ワークシート (学びに向かう力、人間性) 観察 自己評価
5	7. 現地学習で学んできたことをまとめ、発表する。	・個人や班で熊野古道についてまとめる。 ・まとめたものを発表し、感想を伝え合う。	(思考力、判断力、表現力) 観察 自己評価 ワークシート
〔单元学習の成果と課題〕			
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習を受けたことにより、世界遺産や熊野参詣道についての理解が深まった。</li> <li>・熊野古道を歩くだけでなく道普請をすることで、世界遺産を保全することの大切さや難しさを感じることができて大変良い経験となった。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とても良い体験学習なので継続して取り組みたいが、交通費等の関係で毎年現地学習を行うことが難しい。</li> </ul>			
〔世界遺産学習の効果〕			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近にある世界遺産のことを知り、実際に参詣道を歩くことで、自然の素晴らしさや熊野の魅力を感じることができた。また、自分たちの地域(一瀬王子)と熊野参詣道との関わりを知ることができ、改めて地域の歴史や文化を見直すこともでき、自分たちのふるさとに誇りを持つ機会となった。</li> <li>・道普請をしている時に、参詣道を歩く外国の方々から、「ありがとう」と感謝の言葉をかけていただいたことがうれしかったという、児童の感想が多かった。世界遺産を保全していく意義が実感できる体験であった。</li> </ul>			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌山県に生まれ育ちながら、ふるさとの世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」について詳しく知っている、他県の人に説明できる県民がとても少ないと感じる。少なくとも、熊野古道近くに住む小・中学生は、一度は世界遺産について学び、参詣道を歩いたり、関連施設を訪ねたりする体験が必要ではないかと思う。</li> <li>大人の関心を高めるためにも、子どもたちの学習成果を発表する機会や場が必要かと思う。</li> </ul>			

様式 2

令和7年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

